

学位論文の要旨

フリガナ 氏名	タナカ フミヤ 田中 文也
専攻 入学年度	宮崎大学大学院農学工学総合研究科博士後期課程 生物機能応用科学 専攻 平成 23 年度 (4月) 入学
学位論文 題目	タイ科魚類赤グループの帰属およびインド・西部太平洋におけるヘダイ属魚類の分類学的再検討
<p>【論文の要旨】 (和文の場合1,200字程度、英文の場合800語程度)</p> <p>沿岸性魚類の代表種であるタイ科魚類は、世界中の熱帯・温帯域に広く分布し、大型になるものも多く、そのほとんどの種が水産上重要な食用魚種である。本科は、現在6亜科34属約143種が知られる。タイ科魚類については、これまで形態学的・遺伝学的に研究されてきた。しかし、これらの研究は、誤った形質評価や、解析対象となる分類群が特定の地域に分布する種のみに限られており、未だタイ科魚類の属や種の学名の扱いについて研究者間での異論が多く、統一見解が得られていない。さらに、最近の過去6年間で15種の新種記載がなされるなど、本科魚類は多くの分類学的な問題が残されている。そこで、本研究では特に分類学的に問題のある、<i>Dentex</i> (12種)、<i>Cheimerius</i> (2種)、および<i>Pagellus</i> (6種)の3属について、類似する他の属魚類と内外諸形態の詳細な比較検討により帰属の再検討、またヘダイ属魚類全6種について種の分類学的再検討を行った。</p> <p>その結果、<i>Dentex</i> (タイプ種: <i>D. dentex</i>) 魚類全 12 種は、4 グループに識別することが示唆された。1) <i>D. dentex</i>; 2) <i>D. angolensis</i>, <i>D. congoensis</i>, <i>D. macrophthalmus</i>, および <i>D. maroccanus</i>; 3) <i>D. abei</i>, <i>D. fourmanoiri</i>, <i>D. hypselosomus</i>, および <i>D. spariformis</i>; 4) <i>D. barnardi</i>, <i>D. canariensis</i>, <i>D. gibbosus</i>, および <i>Cheimerius nufar</i>。グループ 1-3 について内部・外部形態において多くの識別的特徴を有する。グループ 1 と 4 は、内部形態にほとんど違いはないものの、背鰭数、背鰭棘の伸長の有無、および鰓蓋の鱗の有無などの外部形態において識別的特徴をもつ。学名の検討を行った結果、グループ 1 に <i>Dentex</i>, グループ 2 に <i>Opsodentex</i>, グループ 3 に <i>Taius</i>, グループ 4 に <i>Cheimerius</i> (<i>Dentex</i> の亜属) を適用すべきと判断した。また、ホシレンコは従来 <i>Cheimerius</i> (タイプ種: <i>C. nufar</i>) に帰属されていたが、両顎側部に臼歯をもつこと、上後頭骨の上端はやや肥大する、前頭骨は小孔が多く肥大しない、篩骨上部に大きく二又した突起があることなどの特徴により、<i>C. nufar</i> と属レベルで識別可能であることが分かった。さらに、遺伝的・形態的に類似する、<i>Pagrus</i>, <i>Evygnis</i>, および <i>Argyrops</i> と詳細に比較した結果、前記の 3 属と属レベルで識別でき、ホシレンコには属のシノニムがないため新たに新属 <i>Amamiichthys</i> を提唱した。<i>Pagellus</i> (タイプ種: <i>P. erythrinus</i>) は従来 6 種の有効種が知られていたが、2 グループに識別することが示唆された。1) <i>P. affinis</i>, <i>P. bellottii</i>, <i>P. erythrinus</i>, および <i>P. natalensis</i>; 2) <i>P. acarne</i>, <i>P. bogaraveo</i>。これらは、眼径の大きさ; 鰓耙の形状; 頭部背面の鱗域; 上後頭骨、前頭骨、副蝶形骨、および前耳骨の形状において優位な違いがある。学名の検討を行った結果グループ 1 に <i>Pagellus</i>, グループ 2 に <i>Nudipagellus</i> (タイプ種: <i>P. bogaraveo</i>) を適用すべきと判断した。</p> <p>ヘダイ属 (<i>Rhabdosargus</i>) 魚類は、これまで 6 種が有効種とされ、ヘダイのみインド・西部太平洋に広く分布するとされてきた。しかし、本研究によりヘダイ各海域で形態的・遺伝的に分化しており、南アフリカ・紅海産は <i>R. sarba</i>, アラビア海産は <i>R. niger</i>, インド産のヘダイには <i>R. chrysargyra</i>, オーストラリア産は <i>R. terwhine</i>, および東アジア産は、<i>R. aries</i> の学名をそれぞれ適用すべきであると判断した。また、ヘダイ属魚類の分散過程について検討した結果、南アフリカを分散の起源とし、インド洋から東アジアへと分散し、赤道を挟んで東アジアとオーストラリアに分散したと推察された。</p>	

- (注1) 論文博士の場合は、「専攻、入学年度」の欄には審査を受ける専攻を記入すること。
(注2) フォントは和文の場合、10.5ポイントの明朝系、英文の場合12ポイントのtimes系とする。
(注3) 学位論文題目が外国語の場合は日本語を併記すること。
(注4) 和文又は英文とする。